

学校目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」

横浜市立蒔田小学校だより

平成28年度

12月号

平成28年11月30日



まいた

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/maita/>

校長 保科 泉

十一月十二日に行われた「わくわくミュージックフェスティバル」には、たくさんのお客様ご家族の皆様、地域の方々にお越しいただき、誠にありがとうございました。夏休み前からプランを練り、十月あたりから練習に取り組んだ成果はいかがだったでしょうか。

一年生の元気で素直な歌声、二年生の明るく一生懸命な演奏、三年生のリコーダーと歌声の柔らかな表現(十八日には南区小学校音楽会に出演して、よく響く新しい南公会堂で更に素晴らしい演奏を発表しました)、四年生は大人への一歩を踏み出したことを感じさせる合奏や合唱、五年生はリズムと旋律の楽しさ美しさを息と心を合わせて表現し、六年生はアカペラの導入から響き合いの美しさを表現し、難度の高い素晴らしい合奏を披露して、さすがに最高学年と感心させられました。十六日の校内わくわくミュージックフェスティバルでも、各学年のよさを発表し合い、こちらもまたとても良い音楽会になりました。

本校は体育科学習と特別支援教育を中心に授業の仕方を見直して、子供たちが「できた」「わかった」を積み重ねること

で学ぶ楽しさを味わい、自信をもって生活できる力を養えるように取り組んできました。七月号でお知らせしましたように少しずつですが学力、体力ともに向上してきました。

「自己有用感」という言葉があります。人の役に立った、人から感謝された、人から認められたという経験を積み重ねることで培われる自信のようなもので、生き生きと生活するための大切な心の栄養です。体育科学習を通して養われたこの力は、様々な場面で発揮されています。

十一月二十六日に南公会堂で行われた青少年指導員主催の「ボイスオブユース」では、この会を進めるボランティアに、本校六年生が十人以上も申し込みました。当日、区長も参列する緊張感あふれる中で司会や受付、会場案内等の仕事を行い、この会をしっかりと支えていました。

二十七日には、みなと総合高校で青少年赤十字救急法交流会が行われ、六年生二人が参加し中・高校生と共に三角巾応急処置や担架運びの実践をゲーム形式の中で実践しました。実はこの日を迎えるまでに、本校に横浜高校の先生や生徒の皆さんが、四回にわたって三角巾の使い方の指導に来ていただき、三、六年生がたくさん参加し応急処置の仕方を学びました。

田っ子の力を、もっともっと伸ばしていきたいと思えます。



ボイスオブユースのボランティア



三角巾を使った応急処置競技